



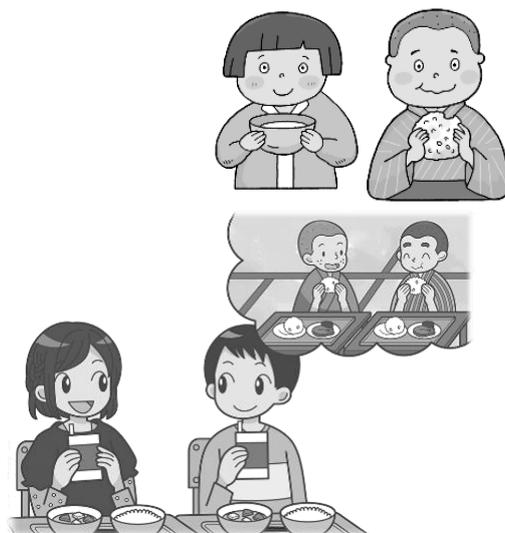
学校給食週間について

全国学校給食週間とは

学校給食は、明治22年に山形県鶴岡町（当時）の私立忠愛小学校で、貧しい家庭の子どもたちに昼食を提供したことが発祥とされています。学校給食の意義や役割について、理解を高める週間として毎年1月24日から30日までを全国学校給食週間としています。

学校給食の意義や役割

学校給食は開始当初、子どもたちの空腹を満たし、栄養を改善するためのものでした。現在は子どもたちの食習慣の乱れ、偏った食事による肥満や生活習慣病の増加が心配されることから、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるために、生きた教材としての役割を担っています。



昔の給食を見てみよう！

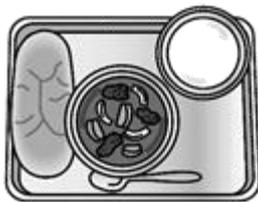
昭和22年ごろ



トマトシチュー・ミルク

ミルクは、脱脂粉乳をお湯で溶かしたものでした。

昭和25年ごろ



コッペパン・ミルク・カレーシチュー

パン、ミルクおかずの完全給食が始まりました。

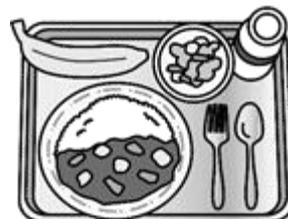
昭和40年ごろ



ソフトめん・五目あんかけ・牛乳・甘酢あえ・みかん

パン以外の主食として、ソフト麺が登場しました。

昭和51年ごろ



カレーライス・牛乳・サラダ・バナナ

米飯給食が正式に始まりました。